



弊社碧雲蔵
および主力製品である日本酒

○本社所在地：北海道札幌市中央区北五条西5丁目7番 sapporo55ビル3階 小樽商科大学札幌サテライト内

○事業概要：日本酒の製造業・小売業、料飲事業を行うグループ会社の管理事務を行う本社

○常時使用する従業員：82名（グループ全体・2024年9月時点）

○現在の売上高：15.3億円（グループ全体・2024年9月期）

○法人番号：2430001075590

○Web： <https://kamikawa-taisetsu.co.jp/company/>

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役社長
塚原 敏夫

地方創生蔵のチカラで世界のグラスに日本酒を！
～北海道から全国へ、そして世界へ～

上川大雪グループは2017年から北海道の上川町で町おこし・地酒造りとして日本酒製造事業を開始しました。私たちは、地元素材と“少仕込み・高品質”の酒造りを実践し、全国新酒鑑評会で金賞を受賞する等品質の高い日本酒の提供をしてきました。今後も、地域の特性を最大限に活かした酒蔵展開をすることで新たな日本酒市場を創出し、全国の酒蔵や業界全体にも良い刺激を与えたいと考えています。社員に対しては、誇りとやりがいを持って働ける環境を整え、待遇の改善と成長機会の提供を通じて、共に未来を築いていきます。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

2033年のグループ全体売上高100億円達成に向け、年率25.3%程度の成長を目指します。核となる酒類製造業の拡大を人材育成、蔵新設、M&Aを通じて実現してまいります。

課題

- ・成長の核となる「杜氏」の育成、確保
- ・継続的に利益をねん出できる財務体制の構築
- ・適切な販売価格設定
- ・プレミアム商品（高価格帯商品）の開発と販売戦略構築
- ・脆弱な営業体制

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

- ・酒蔵の新設やM&Aによる既存酒蔵の再生を通じて全国での生産体制を強化し、杜氏の育成により高品質な酒造りを持続可能にします。
- ・世界的観光名所である網走オホーツクに酒造を創ることで世界に対して日本酒をアピールします。食の巨匠・三國清三の知見を活かし世界の富裕層に日本酒と料理のマリアージュを提案し、「世界のグラスに日本酒が注がれる」よう訴求し、日本酒が世界から注目されるよう市場を広げます。
- ・さらに、DXによる販売管理システムの導入とデータ活用により、効率的な営業戦略と収益力の向上を図ります。

実施体制

- ・組織体制の見直しと役割の明確化
- ・M&A後のスムーズな経営統合のための組織づくり、人材育成、マニュアル化
- ・三國清三シェフの知見を活かした事業展開
- ・産官学+地域と一体化した事業の拡大

売上高100億円実現目標とグループ体制

上川大雪グループは、「地域創生蔵」をキーワードに掲げ、日本酒の製造事業を中核として、日本各地の地域経済の活性化と日本文化の継承を推進し、100億円企業への成長を目指しています。

具体的措置と成長手段

1. 地域資源を活用した酒造りの拡大

北海道の水とと北海道産酒米を使用し、北海道上川町の「緑丘蔵」、帯広市帯広畜産大学内の「碧雲蔵」、そして今回新設する「網走オホーツク蔵」の3拠点で、日本酒の製造を行ってまいります。これにより、地域農業・商業者との連携を強化し、地産地消・外部への販売を推進していきます。

2. 6次産業化による事業多角化

酒造りを核とし、酒米生産者との連携からレストラン、チーズ工房、ホテルなどの運営を通じて、観光と食文化を融合させた地域活性化モデルを展開していきます。

3. 産官学連携による人材育成

小樽商科大学や帯広畜産大学などの教育機関と連携し、酒造りや地域創生に関する教育プログラムを実施。学生のインターンシップや実習を通じて、次世代の地域リーダーを育成しています。

4. 地域との協働によるブランド強化

北海道上川町を始め地元自治体と密に連携し、観光分野、ブランド創り、まちづくりなど様々な活動を推進します。

実施体制

代表取締役社長の塚原敏夫を中心に、総杜氏の川端慎治が酒造りを統括。また、三國清三シェフが最高顧問として食と観光の融合を推進します。地域経済の活性化と100億円企業への成長を実現し、全国の地方創生のモデルケースとなることを目指しています。

